

令和 5 年度

網走市における景気動向調査

<第Ⅲ四半期>

報 告 書

網 走 商 工 会 議 所

目 次

第1章 調査要領

1-1	調査時点及び調査対象期間	1
1-2	調査対象	1
1-3	調査方法	1
1-4	回収状況	1

第2章 概況

2-1	全体の動き	2
2-2	業種別の動き	3
1)	建設業	3
2)	製造業	4
3)	卸売業	4
4)	小売業	5
5)	サービス業	5

第3章	業種別設備投資の状況	6
-----	------------	---

第4章	業種別経営上の問題点	7
-----	------------	---

第5章	業界の景気動向等その他のご意見	8
-----	-----------------	---

第1章 調査要領

1-1. 調査時点及び調査対象期間

- (1) 調査時点：令和5年10月1日（日）～令和5年12月31日（日）
- (2) 調査対象期間：令和5年10月～12月期実施、及び令和6年1月～3月見通し

1-2. 調査対象

網走市に所在する建設業（30件）、製造業（24件）、卸売業（20件）、小売業（40件）、サービス業（44件）の158社を調査対象とした。

1-3. 調査方法

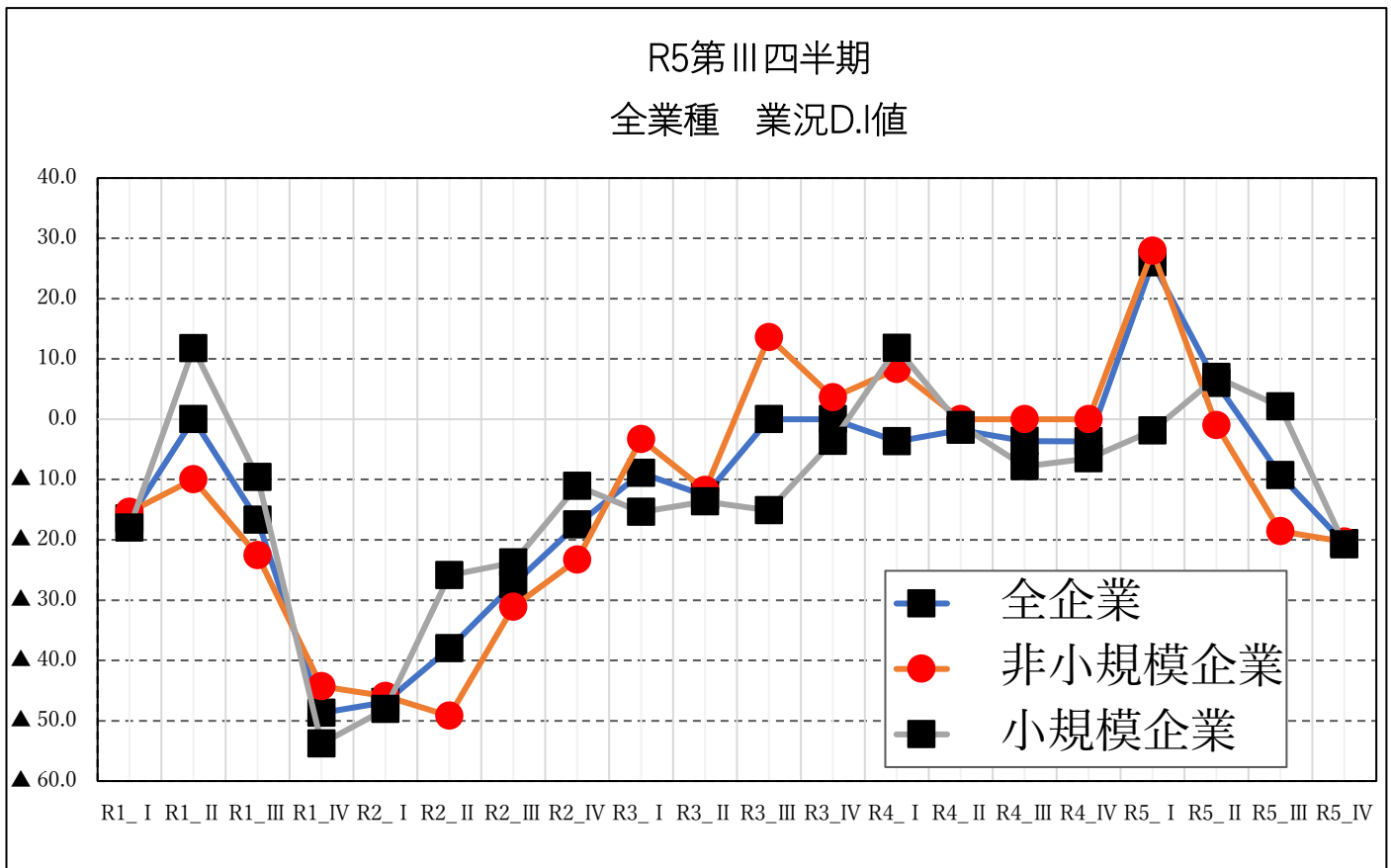
調査対象に案内文と調査票を送付し、FAXもしくは同封の返信用封筒による郵送、インターネット（Google フォーム）による返信にて回答を受ける。

1-4. 回収状況

業種	企業数 対象企業数	回答企業数	回答率
建設業	30件	22件（非小規模企業：11件、小規模企業：11件）	73.3%
製造業	24件	16件（非小規模企業：8件、小規模企業：8件）	66.7%
卸売業	20件	14件（非小規模企業：8件、小規模企業：6件）	70.0%
小売業	40件	31件（非小規模企業：19件、小規模企業：12件）	77.5%
サービス業	44件	24件（非小規模企業：12件、小規模企業：12件）	54.5%
合計	158件	107件	67.7%

第2章 概況

2-1. 全体の動向



令和5年度第Ⅲ四半期（10月～12月）の全企業業況は、前年同期に比べ、「好転企業」15.0%、「悪化企業」24.3%となり、「好転企業」から「悪化企業」を差し引いたD.I.値は△9.3となり、前回（D.I.値6.0）に比べ、その差は15.3ポイント悪化傾向となっています。

非小規模企業の業況は前年同期に比べ、「好転企業」13.6%、「悪化企業」32.2%となり、「好転企業」から「悪化企業」を差し引いたD.I.値は△18.6となり、前回（D.I.値△1.0）に比べ、その差は17.6ポイント悪化傾向となっています。

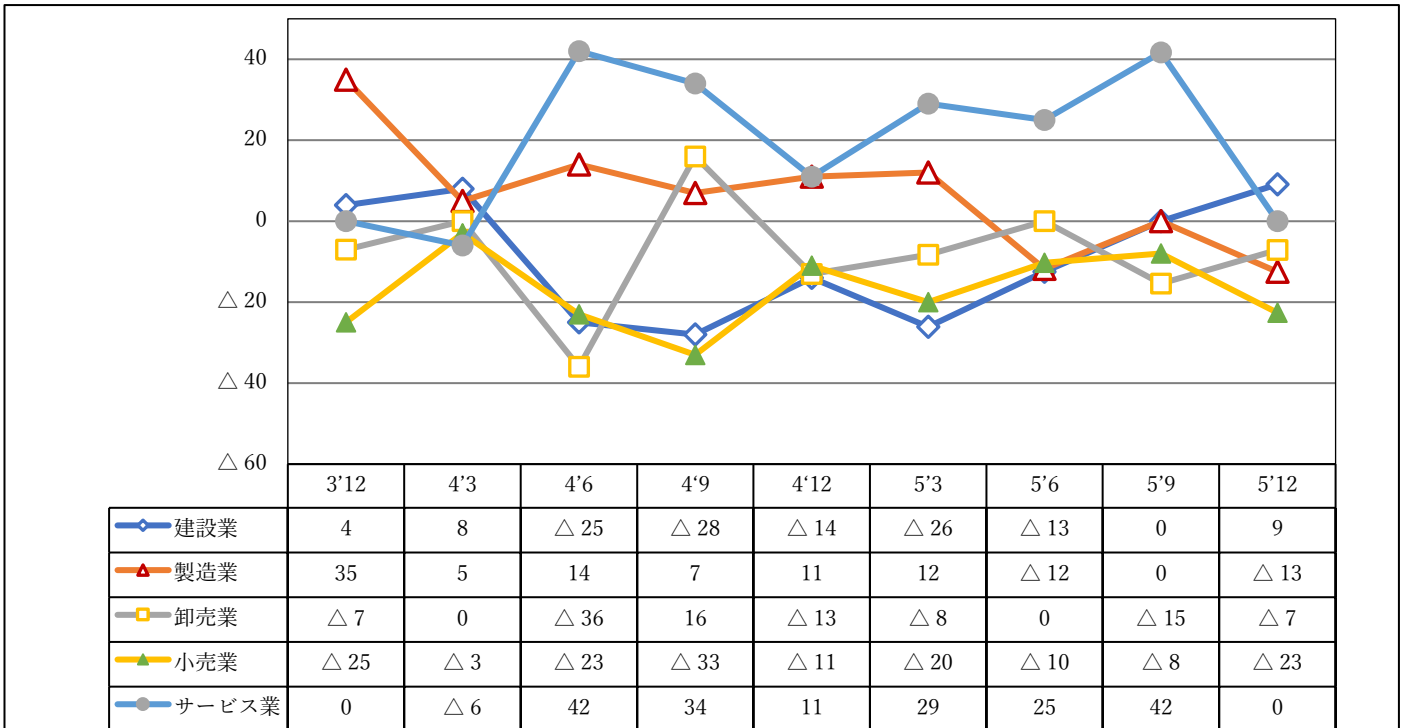
小規模企業の業況は前年同期に比べ、「好転企業」16.7%、「悪化企業」14.6%となり、「好転企業」から「悪化企業」を差し引いたD.I.値は2.1となり、前回（D.I.値7.0）に比べ、その差は4.9ポイント悪化傾向となっています。

次期（1月～3月）見通しとして全企業の業況は、今期に比べ「好転企業」8.4%、「悪化企業」29.0%となり、「好転企業」から「悪化企業」を差し引いたD.I.値は△20.6となり、今期（D.I.値△14.0）に比べ、その差は6.6ポイント悪化傾向となっています。

非小規模企業の次期業況見通しは、今期に比べ「好転企業」11.9%、「悪化企業」32.2%となり、「好転企業」から「悪化企業」を差し引いたD.I.値は△20.3となり、今期（D.I.値△11.0）に比べ、その差は9.3ポイント悪化傾向となっています。

小規模企業の次期業況見通しは、今期に比べ「好転企業」4.2%、「悪化企業」25.0%となり、「好転企業」から「悪化企業」を差し引いたD.I.値は△20.8となり、今期（D.I.値△3.0）に比べ、その差は17.8ポイント悪化傾向となっています。

2-2. 業種別の動向



1) 建設業

完成工事高

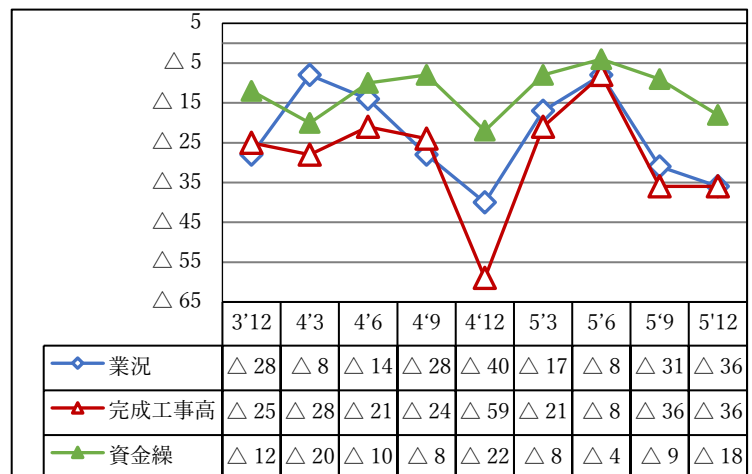
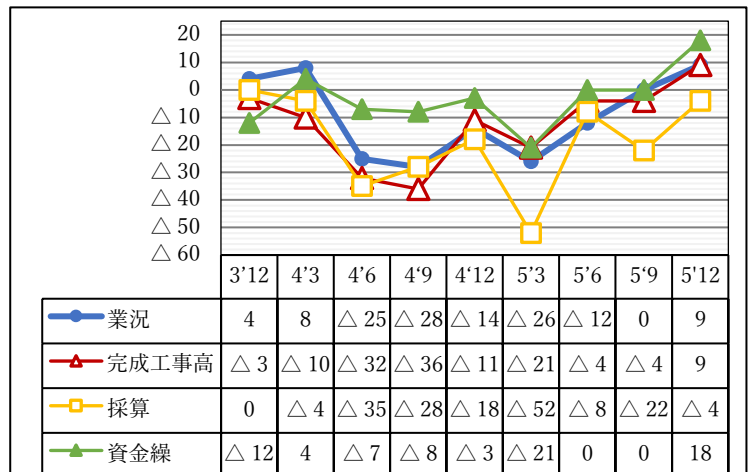
前年比で「好転企業」31.8%、「悪化企業」22.7%、D.I.値9.1と前年同期（△11.1）に比べ20.2ポイントの好転傾向を示しました。

採算

前年比で「好転企業」22.7%、「悪化企業」27.3%、D.I.値△4.6と前年同期（△18.5）に比べ13.9ポイントの好転傾向を示しました。

来期見通し

業況D.I.値△36.4（前年同期D.I.値△40.7）、完成工事高D.I.値△36.4（同△59.3）、資金繰り△18.2（同△22.2）と前年同期に比べ、全ての見通しで好転傾向を示しました。



2) 製造業

生産高

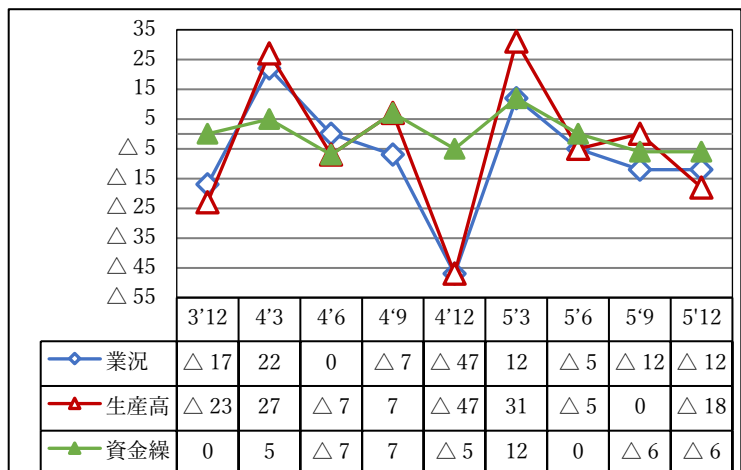
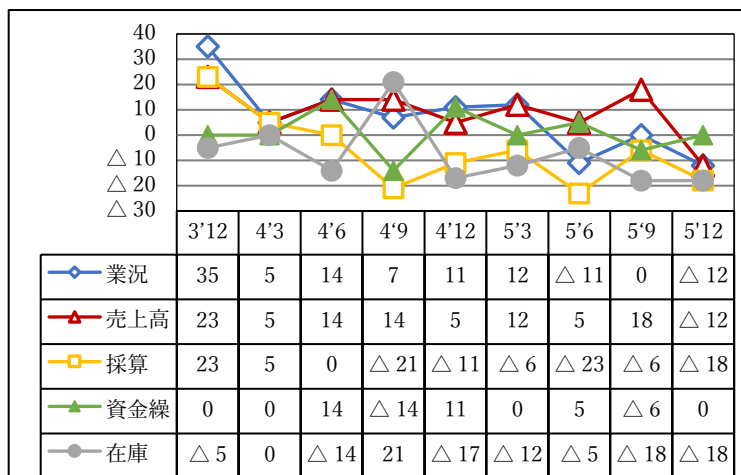
前年比で「好転企業」6.3%、「悪化企業」18.8%、D.I.値△12.5と前年同期（△5.9）に比べ18.4ポイントの悪化傾向を示しました。

採算

前年比で「好転企業」6.3%、「悪化企業」25.0%、D.I.値△18.7と前年同期（△11.8）に比べ6.9ポイントの悪化傾向を示しました。

来期見通し

業況 D.I. 値△12.5（前年同期 D.I. 値△47.1）、生産高 D.I. 値△18.8（同△47.1）、資金繰り△6.3（同△5.9）と前年同期に比べ、2つの見通しで好転傾向を示しました。



3) 卸売業

売上高

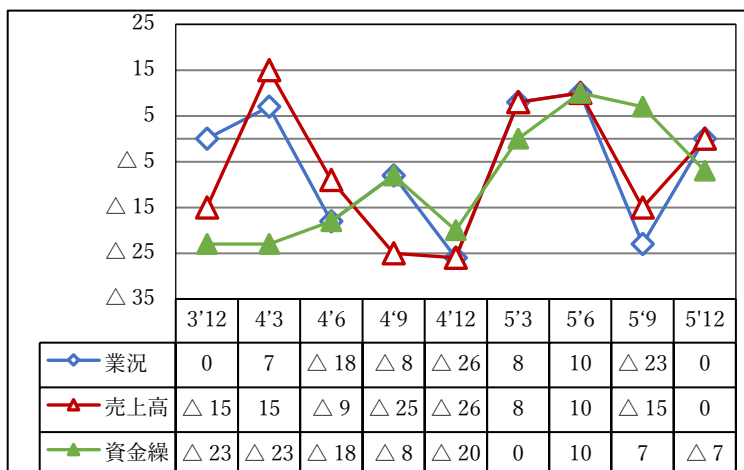
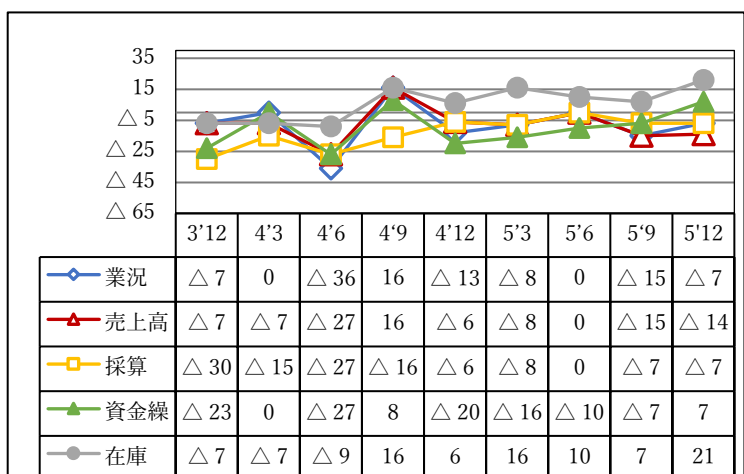
前年比で「好転企業」14.3%、「悪化企業」21.4%、D.I.値△7.1と前年同期（△6.7）に比べ0.4ポイントの悪化傾向を示しました。

採算

前年比で「好転企業」14.3%、「悪化企業」21.4%、D.I.値△7.1と前年同期（△6.7）に比べ0.4ポイントの悪化傾向を示しました。

来期見通し

業況 D.I. 値 0.0（前年同期 D.I. 値△26.7）、売上高 D.I. 値 0.0（同△26.7）、資金繰り△7.2（同△20.0）と前年同期に比べ、全ての見通しでは好転傾向を示しました。



4) 小売業

売上高

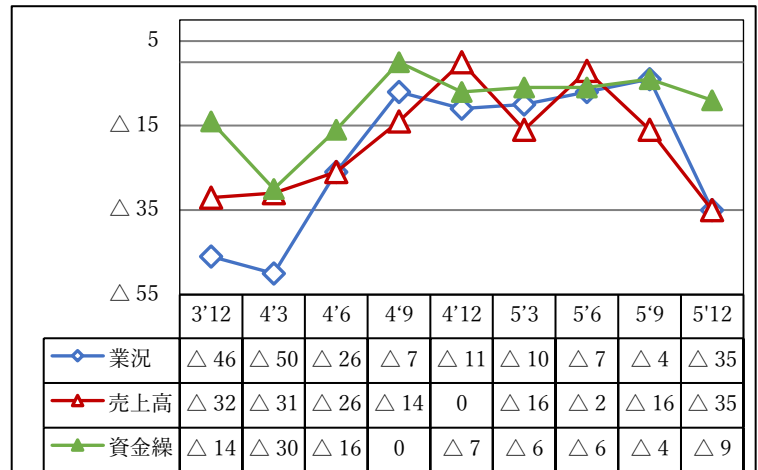
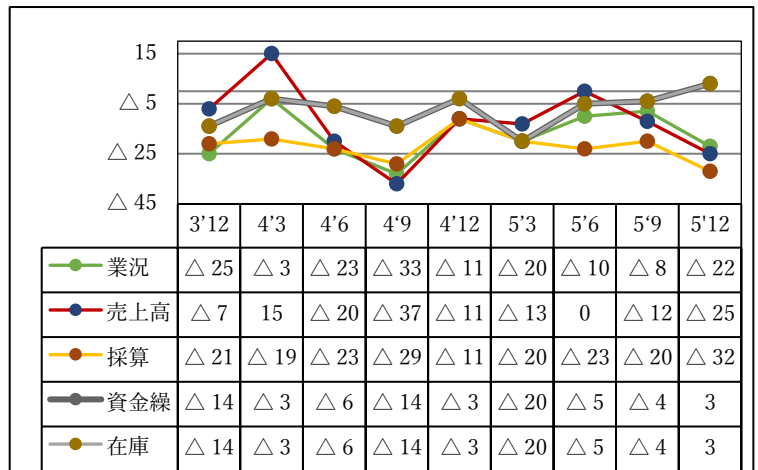
前年比で「好転企業」9.7%、「悪化企業」35.5%、D.I.値△25.8と前年同期（△11.5）に比べ14.3ポイントの悪化傾向を示しました。

採算

前年比で「好転企業」3.2%、「悪化企業」35.5%、D.I.値△32.3と前年同期（△11.5）に比べ20.8ポイントの悪化傾向を示しました。

来期見通し

業況 D.I. 値△35.5（前年同期 D.I. 値△11.5）、売上高 D.I. 値△35.5（同 0.0）、資金繰り△9.7（同△7.7）と前年同期に比べ、全ての見通しで悪化傾向を示しました。



5) サービス業

売上高

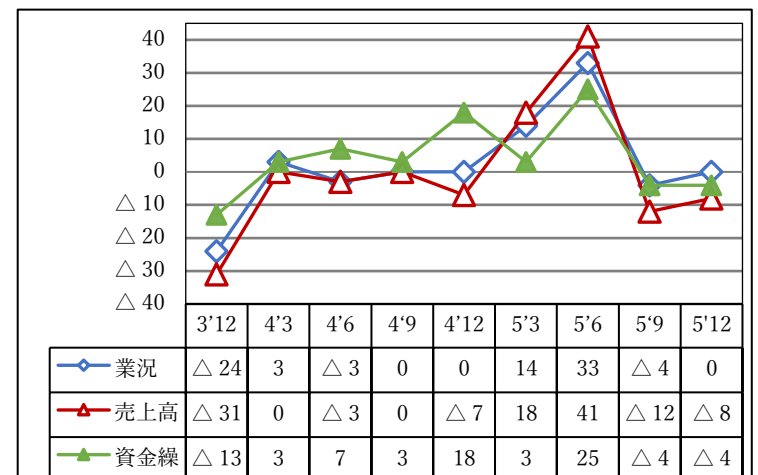
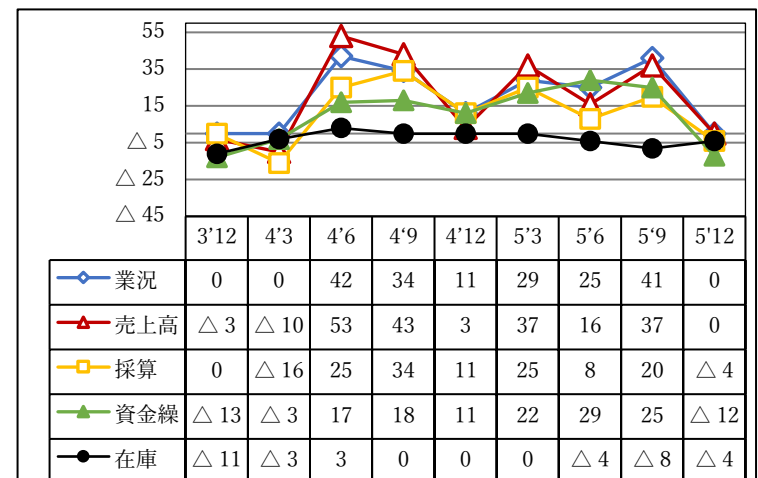
前年比で「好転企業」20.8%、「悪化企業」20.8%、D.I.値 0.0 と前年同期（3.7）に比べ、3.7ポイントの悪化傾向を示しました。

採算

前年比で「好転企業」16.7%、「悪化企業」20.8%、D.I.値△4.1と前年同期（11.1）に比べ15.2ポイントの悪化傾向を示しました。

来期見通し

業況 D.I. 値 0.0（前年同期 D.I. 値 0.0）、売上高 D.I. 値△8.3（同△7.4）、資金繰り△4.2（同 18.5）と前年同期に比べ、2つの見通しで悪化傾向を示しました。



第3章 業種別設備投資の状況

今期の設備投資の有無と設備内容について調査し、業種別に統計しました。

設備投資の有無は表1のとおり、設備内容は表2のとおりです。

表1 業種別設備投資の動向

	建設業	製造業	卸売業	小売業	サービス業	全業種
実施した	6件	2件	2件	6件	4件	20件
実施していない	16件	14件	12件	25件	20件	87件
合計	22件	16件	14件	31件	24件	107件

表2 業種別設備投資の内容

	建設業	製造業	卸売業	小売業	サービス業	全業種
土地	2件	1件	0件	0件	1件	4件
店舗	0件	0件	0件	0件	3件	3件
販売設備	0件	1件	0件	2件	0件	3件
車輛運搬具	5件	1件	0件	3件	2件	11件
付帯設備	0件	1件	1件	2件	1件	5件
OA機器	0件	0件	0件	1件	0件	1件
福利厚生施設	0件	0件	0件	0件	0件	0件
その他	0件	1件	1件	1件	0件	2件
合計	7件	5件	2件	9件	7件	29件

※複数回答あり

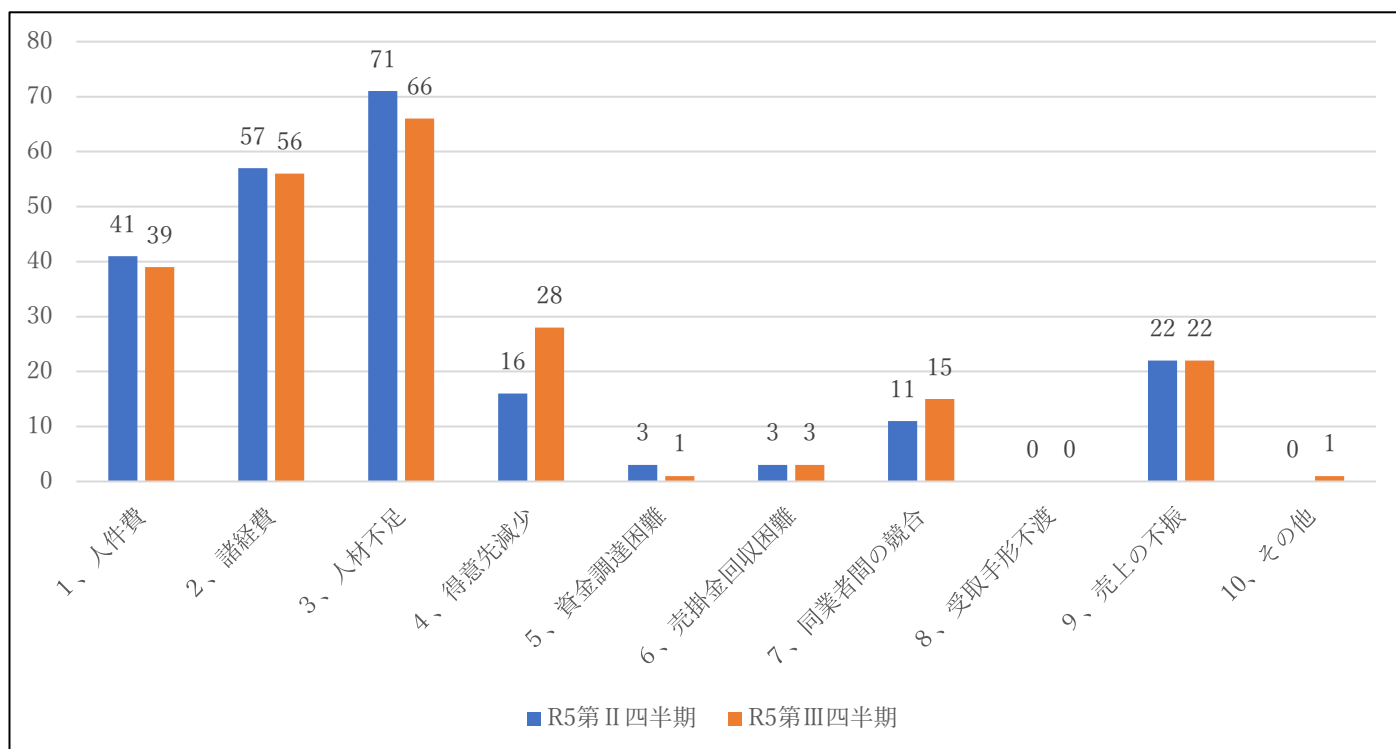
○全業種でみると設備投資に実施したのが23件、実施していないが84件となりました。前回は設備投資を実施したのが17件、実施していないが83件でありました。また、設備内容として最も多かったのは車輛運搬具、付帯設備、次いで土地となっています。前回は車輛運搬具が最も多く、付帯設備が2番目に多く占めていました。

第4章 業種別 経営上の問題点

表1 業種別上位

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
建設業	人材不足	人件費増	諸経費増	売上の不振	得意先減少
製造業	諸経費増	人件費増	人材不足	得意先減少	同業者間の競合
卸売業	諸経費増	人材不足	人件費増 同業者間の競合	得意先減少 売上の不振	売掛金回収困難
小売業	人材不足	諸経費増	得意先減少	売上の不振	人件費増
サービス業	人材不足	諸経費増	人件費増	得意先減少	売上の不振
全業種	人材不足	諸経費増	人件費増	得意先減少	売上の不振

グラフ1 業種別件数



※複数回答あり

○全業種でみると前回調査に引き続き、上位5位までの順位に変動はありませんでした。また、業種別でみると、全業種で「人材不足」、「諸経費増」、「人件費増」が多く占めており、建設業、小売業、サービス業では前回同様、「人材不足」が多く占め、製造業、卸売業では「諸経費増」が多く占めました。

第5章 業界の景気動向等その他のご意見

○業界の問題点について

【建設業】

- ・インボイスについて ①振り込み手数料について資材仕入れ業者からはインボイスを理由に支払い側の負担と言われ、得意先（元請）の一部からはインボイスを理由に負担しろと言われ、我々は支払う時も支払われる時も負担させられているケースがある。支払い側負担の原則に則ってほしい。 ②インボイス制度撤廃してほしい。
- ・労働者の高齢化に伴い、働く人材が不足している。

【製造業】

- ・原材料の価格上昇、人手の不足。
- ・今後の新規の人材難。用紙、材料の値上げが止まらない。

【卸売業】

- ・インボイス、電帳法が同時期に近い時期に始まったので経理以外の現場部門での混同が多い。インボイス番号のない領収書の相手先への確認が面倒。

【小売業】

- ・石川県、新潟県の地震の後遺症はどれだけあるか。賃金増は地方にマイナス、通信技術の進化が地方経済にはマイナス。どれだけこの同時的進化に我々がついていけるかが勝敗を分ける。
- ・物価高騰により財布のひもがかなり固いように思う。

【サービス業】

- ・「HOKKAIDO LOVE 割」終了後は特に支援もなくなり自力での集客となりましたが次年度（令和6年度）の観光方予算は前年度比1.64倍の約503億1800万円となった。来年度も引き続き、持続可能な観光地域づくり。地方を中心としたインバウンド集客の戦略的取組、国内交流の拡大に取り組むとの発表が出ております。
- ・一番は人材不足が響いています。売上をあげたくてもそれによって回せなくなってます。
- ・業界全体の課題として、美術職員の高齢化もあり、人材の確保・技術継承について、当該業種・地域性の魅力を発信し、若手技術者の確保に繋げることが必要です。【若手技術者（新卒者）の採用・人材不足にかかる問題点】新卒者の地元企業への就職希望者が極めて少ない。採用条件において、中央大手企業との格差是正を要する。現業を担当しながら人材育成を行う上司の負担が増加している。社会情勢の変化に応じた、社内体制の見直しを行う。当該業種・地域性の魅力発信は、地元の小・中、高校生の体験巡業の開催計画を行う。